

目的 前五報と同じ。本報では、19世紀後半から近代にかけて、現代の家具や室内の先駆となるアメリカの室内装飾の変遷過程について概観する。

方法 Sherrill Whiton 著「Interior Design and Decoration」、Jean Taylor Federico 著「Clues to American Furniture」、John F. Pile 著「Interior Design」、鐘和田務著「家具の歴史<西洋>」、清家清監修「アメリカン・ハウス」、嶋佐知子著「洋家具とインテリアの様式」、その他においてアメリカの室内装飾について記述された部分の考察と分析。

結果 第二次世界大戦前におけるアメリカの主要な建物は、フランスのエコール・デ・ボザールの影響による過去の様式の模倣であり、19世紀後半から1920年代頃はこの傾向により、折衷主義時代と呼ばれた。そして室内もこれに追従することが期待され、建物の様式や施主の好みに応じて、歴史的に確かな様式を借用して装飾された。この時代には、インテリア・デコレーターという職能の人も現われてくる。それは一般的に、歴史的様式から趣味のよい借用を行なう室内装飾家であった。一方、この時代に新しい芸術への創造も生まれてくる。シカゴのサリバンのもとで学んだF. L. ライトは、彼の建築や室内デザインに調和する新しいスタイルの家具を生み出した。アメリカでは家具の上には現われなかったが、アール・ヌーボーの流れは、L. C. ティファニーのガラス製品にみることが出来る。そして、第一次世界大戦と第二次世界大戦の間には、アール・デコの装飾も出現した。また、この同時代に、ヨーロッパからインターナショナル・スタイルという新しい思想の様式がもたらされ、アメリカの家具工業の上に数々の影響を与えたのであった。